

●1年前、通訳の国家試験に合格し、通訳として第二の人生を踏み出し1年経った。3月、4月は通訳ガイドとして殆ど休みなく働き、最近、ようやくゆっくりとした時間を過ごせるようになった。そして思うのは1年前までには想像つかない人生を今送っていることである。今までの私の人生を振り返って見ても今私がやっている事を想像することは全く出来なかつたろう。毎日が充実し、いきいきしているのを実感している。通訳は言葉や文化が違う人と人のコミュニケーションを取る仕事である。ビジネス通訳、イベント通訳等々いろいろな通訳業務をやったがお互いが通じ合い理解し喜ぶ様子を見ると何とも言えない満足感がある。毎回、緊張感と終わった後の達成感がなんとも言えない楽しみである。今一番多い仕事は通訳ガイドである。3, 4, 5月、9, 10, 11月はインバウンドで一番忙しい。計算してみたところ、この1年間の移動した距離約6600km、訪れた観光地は延べ約50か所であった。特に京都、広島、奈良、大阪は何度行ったか分からない。しかし京都の『金閣寺』のようにその都度新しい発見があるので何度行っても飽きない。『広島原爆資料館』では訪問した前日、被団協がノーベル平和賞を受賞しメディアや関係者で大変な混雑であったがツアーのメンバーから祝福の言葉を頂き感激した。



●クルーズ船では長崎、神戸、鳥羽、敦賀、秋田、宮古（岩手）、金沢等々。ロングツアーでは30人程のグループと最長2週間一緒に行動する。ツアーリーダーは私で唯一の日本人である。グループの旅行の目的を安全に最後まで完遂するのが私の仕事である。時にはグループ内のささいな諍いや痴話喧嘩までも対処もしなくてはならない。大変ではあるが、グループの皆さんとより親密になれるので苦にならない。最後に空港で見送る時は別れがつかなくなる。この1年で全国各地のいろいろな伝統文化も体験した。勿論、各地の伝統文化の伝承者の説明を逐次通訳するので当然ながらこちらも勉強しなくてはならない。秋田の『なまはげ』福井の『越前和紙つくり』、京都の『友禅染、茶道』等々今や観光客は文化の体験が一番の人気でどこもツアーの行程に入っている。こちらも付いていくのが大変である。福井の『越前和紙作り』体験では職人さんの説明をほぼ同時通訳、果たして皆さんが分かってくれたか不安であったが職人さんが驚くくらい立派な出来栄で、安心した。皆さんうれしそうにお土産として母国に持ち帰った。秋田の『なまはげ』体験では地域の伝統を残そうと地元の人の熱意と真にせまる演技で大好評だった。又、私自身も秋田の『寒風山』や宮古（岩手県）の『浄土ヶ浜』の初めて見る景色に感動した。北米からのクルーズ船でのエクスカージョンツアーではツアーの終了後多くの方が満面笑顔で、中には握手やハグをしながらチップを渡してくれる。最初は辞退していたのだがクルーから『これはあなたの仕事に対する相手の敬意だから断るのは失礼、頂くべきだ』とのアドバイスで以後は頂くようにした。●私の通訳言語は英語だが通訳仲間には様々な世界の言語の通訳がいて今や世界の様々な国から観光にやってくる、そして日本の景色、歴史、文化に触れ日本を理解し、満足して帰っていく。昨年の訪日外国人観光客約3700万人、消費額は8兆円を超えた。今年は既に1000万人を超えている。日本にとっても半導体分野に匹敵する経済規模になりつつある。政府は最終的に年間6000万人の訪日客を呼び込む予定だと言う。世界の人々がお互いの国々を理解し合えれば戦争なんかとても起こるとは思えない。今年は9月には『大阪万博』と東京での『世界陸上』のイベントでの通訳を予定しているので楽しみである。〈2025.5月投稿〉

